

教育改善 PDCA 進捗シート-04

課題名称	専門科目の開講時期の前倒し
起案者	若井・金井【カリキュラム WG】

※原則として起案者が本シートを継続的に記録，学科ホームページに UP する。

課題の概要（改善すべきとする背景と目的）
<p>3 年前期の開講科目および必修科目が多い一方、2 年生で開講されている科目が少なく、2 年と 3 年のギャップが大きい。研究室配属を 3 年後期からに早期化した（2006 年～）が、3 年後期に履修する科目が多く研究室活動が十分にできない。これらの問題を解決するためには、科目全体の開講時期を履修の流れに十分配慮しながら半年あるいは 1 年前倒しする必要がある。その際に 2 年次と 3 年次の必修科目が同一時間帯にならないようにして、3 年生が 2 年生で再履修になった必修科目を取得できるように時間割を工夫する。</p>

Phase	議論・措置の内容	議論の経過（年月 委員会 等）	次回予定
P	<ul style="list-style-type: none"> ■ 科目履修の流れに十分配慮しながら 2 年次前期と後期の開講科目数と 3 年次前期の開講科目数のアンバランスを解消する。 ■ 1 年生の専門科目を増やす。 ■ 上記の調整案を各分野から集約する。 	<p>2009 年 12 月（教室会議）</p> <p>2009 年 12 月（各分野）</p>	
D	<ul style="list-style-type: none"> ■ 調整案を各分野から集約した。 ■ 測量学と基礎力学は 1 年次後期開講。 	2010 年 1 月（若井）	2010 年 1 月
C	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教室会議で本調整案は実現可能と判断し、各科目の開講時期を確定した。 ■ 時間割案作成時の留意事項を確認した（以下）。（共通科目／専門科目の非常勤講師枠／専門科目の他学科と同時開講科目／2 年次と 3 年次の必修科目の時間帯／学年を超えて移動する場合の前倒し移行期間の対応／大型講義室の確保） 	2010 年 1 月（教室会議・若井）	
A	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2010 年度の時間割を作成し、教室会議で確認した。 ■ 2010 年度は移行期間として実施し、科目 	<p>2010 年 1 月（若井・金井）</p> <p>2010 年 1 月（教室会議）</p> <p>2010 年 2 月（教室会議）</p>	2010 年 1 月

	によっては前期後期の二期開講や2年生と3年生まとめて開講などで対応する。		
A2	■2010年度実施（前倒し移行期間）。		
C2	■2010年度実施（前倒し移行期間）して、3年の科目が少なくなり、2年生と3年生の必修科目がダブらないため、再履修がこれまでより容易となり、留年しにくくなったようである。	2011年4月（若井）	2011年3月
A3	■2011年度実施（前倒し完全移行）。		
C3	■2011年度実施（前倒し完全移行）した結果は、C2の記述と同様である。3年前期終了時点では進級規定に抵触していた学生が、3年後期終了時には進級規定をクリアする学生が昨年同様数名いて、前倒しと時間割調整は効果的であったといえることが確認され、本WGは完了とした。	2012年3月（教室会議）	【WG完了】

※ C2、A2は1サイクル目で2回目のCおよびA。C3、A3は1サイクル目で3回目のCおよびA。